

NEWS RELEASE

オンラインメディアでも話題のハイパーリアリティ作品が日本初上陸 イガル・オゼリ展 「Erasing Photography」 明日より開催 ～2017年1月26日(木)～2月4日(土) @代官山ヒルサイドフォーラム～

株式会社デジタルガレージ（東証 一部 4819、本社：東京都渋谷区、代表取締役 兼 社長執行役員グループCEO：林 郁、以下：DG）が協賛する、ハイパーリアリティアーティストであるイガル・オゼリ氏の国内初となる展示会「Erasing Photography」が、明日1月26日（木）より開催されます。



©Yigal Ozeri, Courtesy of the artist

本展は、イガル・オゼリ氏の日本初の個展となります。ローリング・ストーンズのボーカル、ミック・ジャガーの娘でありモデルとして活躍するリジー・ジャガーさんや、ポーランド出身のファッションモデルであるズザナ・ブッシウォルドさん、そして今回アジア人で初めてオゼリ作品のモデルとして起用された坂井香さんを描いたシリーズの発表となり、今回は新作14点を含むペインティング約15点、ドローイング約5点の計20作品、総額1億円を超える展示を行います。

イガル・オゼリ氏は現在ニューヨークを拠点に活動するイスラエル出身のアーティストで、オゼリ氏の作品はフォトリアリズムの流れを汲む超絶技法で知られ、自然の中での女性の一瞬の姿を、まるで写真のように捉え描いています。オゼリ氏の作品では、モデル達の女性の、もの思わしげな表情でのたたずまいや、髪の毛の流れ、洋服のテクスチャー、自然光でかがやく肌などが執拗に描かれており、この描写は、ジョン・エヴァレット・ミレイやダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティ等のラファエロ前派からの影響が多く見られ、寓話的なシチュエーション、想像性、優美さ、そして現代的リアリティを融合させたオゼリ独得の世界観を生み出しております。

VR（ヴァーチャルリアリティ）が当たり前となっている現代において、なぜ油彩による手業で写実で表現するのか、IT社会の中での私達にとって写実とは、リアリティとは、そしてアートとはなにかを考えさせられるきっかけとなるような展示会になっております。

NEWS RELEASE

■展示会開催概要

【展示会名】

イガル・オゼリ展 「Erasing Photography」

【会場】

代官山ヒルサイドフォーラム（東京都渋谷区猿樂町 18-8 ヒルサイドテラスF棟 1階）

【期間】

2017年1月26日(木)～2月4日(土)の計10日間

【時間】

OPEN 12:00 ～ CLOSE 20:00 (最終入場は19:30)

【主催】

Galerie NUAGE、Zemack Contemporary Art

【協賛】

株式会社デジタルガレージ、株式会社クレディセゾン、獺祭

【企画協力】

Tomio Koyama Gallery

【後援】

イスラエル大使館

【URL】

<http://ozeri-japan.com/>

【問い合わせ先】

galerie_2@g-nuage.co.jp <運営事務局（株式会社ニューアージュ内）>

※一般のお客様の問い合わせ専用となります。

■Yigal Ozeri / イガル・オゼリ

1958年イスラエル生まれ。ニューヨークを拠点に活動。現在、戦後から現代までのハイパーリアリズムに焦点を当てた「50 Years of Hyperrealistic Painting」に、リチャード・エステス、チャック・クロースなどの巨匠と並び出展。スペイン、マドリードのティッセン＝ボルネミッサ美術館や、イギリスのバーミンガム美術館、スペインのビルバオ美術館等世界中を巡回している。

主なパーマネントコレクションとして、ホイットニー美術館（ニューヨーク、アメリカ）、マックネイ美術館（テキサス、アメリカ）、ユダヤ博物館（ニューヨーク、アメリカ）、ニューヨーク公共図書館（アメリカ）、イスラエル博物館（エルサレム）、テルアビブ美術館（イスラエル）、フレデリック・ワイズマンアートファウンデーション（ロサンゼルス、アメリカ）、アルベルティーナ美術館（ウィーン、オーストリア）等に所蔵されている。

